

# ブドー免砧についての考察

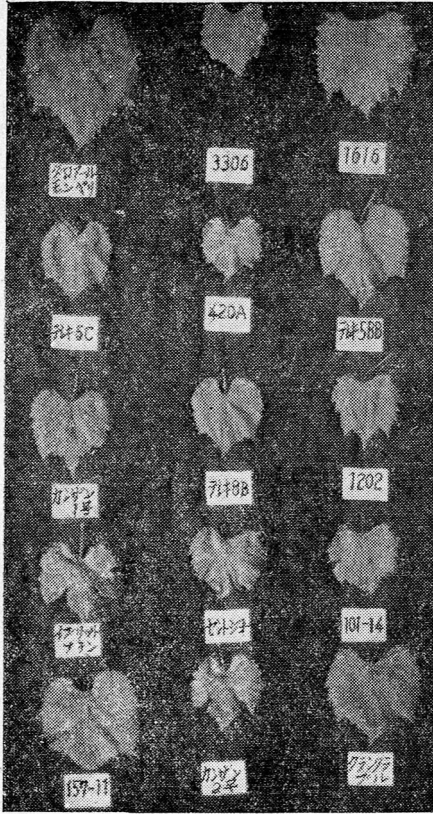
赤羽 紀雄

北海道では昭和の初期頃からブドー免砧が盛に使用されてきたと聞いているが、その後一時衰退して自根苗が専ら増殖されて来た。近時、再び免砧について騒がれるようになって来たのを見ても、この変遷は勿論、根を害するフィロキセラ虫発生 of 盛衰と一致しているようである。併し戦後急激に接木苗の必要性が認められて来たのは単にフィロキセラ虫の激増に対処するばかりでなく樹体に対する種々の生理的影響が考えられるようになったからであると思う。

特に北海道においては免砧としての特性を現わすためには熟期を早めること、及び耐寒性を強めることの効果が伴わなければ

真の免砧利用の価値がないと思う。この点内地府県の場合と若干趣を異にするといえよう。以下ブドー免砧について考察してみたい。

一 砧木の品種にはどんなものがあるか  
 今日まで使用されている砧木は殆ど全部が仏国で育成されたもので有名品種としてわが国で利用されているものを大別するとリパリア、ルベストリス、ソロニス及びその雑種、リパリア×ルベストリス。ルベストリス×ベニフエラ。ペランデリ×リパリア等であるが、この中、実際に利用価値の多いものはリパリア×ルベストリス系の品種、即ち三三〇九、三三〇六、一〇一の一



第二表 砧木が穂に及ぼす影響 (一)

砧木品種	代表系統	穂に及ぼす重要な影響
リパリア各品種	グロアールモンペリ等	早熟多産
ルペストリス各品種	セントジョージ等	晩熟多産 品質低下
ベランデリー各品種	四二〇A、テレキハB、五C等	早熟多産 品質向上
リパリア各品種	一〇一の一四、三三〇九、三三〇六等	やや早熟
ルペストリス各品種	イブリットフラン、カンザン一号等	やや晩熟

第二表 砧木が穂に及ぼす影響 (二)

砧木品種	挿木活着	接木活着	成熟	色沢	耐病	花振
グロアール	極易	極易	早	良	弱	少
セントジョージ	易	易	晩	淡	強	多
一〇一の一四	易	易	やや早	良	?	少
三三〇六	易	易	中	中	やや弱	少
三三〇九	易	易	中	中	やや強	やや多
一六一六	易	易	早	良	弱	少
ヴィアラ	易	易	早	良	弱	少
シードリング	易	易	早	良	弱	少
イブリットフラン	易	易	晩	不	強	少
カンザン一号	易	易	晩	やや不	強	多
一二〇二	極易	極易	晩	良	強	多
四二〇A	やや難	易	早	良	強?	少
三四エコール	やや易	易	早	良	?	少

主体である場合には砧木が及ぼす果粒品質の影響の点ではそう神経質になる必要はないように思う。寧ろ問題とすべきことは熟期の早晚と収量の多少及び寿命の長短などである。この点について従来の試験成績を総合してみると第二表(一)である。

砧木があれば産地は更に北進出来ると考える。更に砧木の影響として望まれることは冬期凍害から免れるような強耐寒性を獲得する砧木品種である。このことに関する成績は今の所、殆ど見当らない。穂木をして耐寒性を強くさせることは肥培管理が主体であるが、若し穂木によつて秋伸びを抑制

あげれば第二表(二)の通りであるが、この成績は大隅氏が岡山県で行つた調査であり栽植距離が狭かつた砧木品種によつては最適の土壤条件にないものもあつたろうから今後栽植距離を拡大して土壤管理を十分行つた場合には成熟、色沢、花振などに多少の相違は当然出て来るものと考えるが一応の目安はつけられることは事実である。

穂木の穂木に及ぼす影響として特に北海道の場合を考えてみると前述したように秋の低温が来る前つまり初霜前に果粒が完熟していなければならぬ。それにはまず穂木の熟期を早める砧木が望ましい。特にナイヤガラのように十月上旬に収穫するものは年によつてまたは場所によつては未熟のままで終ることがあるから今後は遅くとも九月一杯で完熟するような

第三表 砧木が穂木に及ぼす耐寒性(粘質壤土)

穂木品種	耐寒性	強	弱
カメルス	二〇一ノ一四、一五七ノ二	同	同
ナイヤガラ	四二〇A	同	同
デラウエア	五C、三三〇九	同	同

して逸早く秋の中に樹体を充実さす品種があれば必ず耐寒性は強くなる筈である。耐寒性と耐旱性は大体生理上からみて一致する傾向がある。つまり耕土の浅い乾燥傾斜地に適応している四二〇A、三三〇九、テレキハ五B、五C等は穂木の耐寒性を強くするようである。しかし同一砧木であつても穂木の品種によつて耐寒性も異なつて来るのは当然である。今、昭和二十九年と三十年における幼木によつて耐寒性と穂木の関係を當場で検討した成績を示せば第三表の通りである。

三 砧勝ち砧負けは問題になるか  
接木された部分が明瞭に境界をなして砧木が穂木にくらべて特に太くなつたり、あるいは細くなつたりすることを砧勝ちまたは砧負けというが、このことは穂木に及ぼす影響についてはまだ的確な証明はない。しかし結論を先にいえば砧と穂に多少の勝ち負けはあつても穂に致命的な障害はない

第四表 幼木に於ける砧勝ち砧負けの分類(粘質壤土)

砧が勝つてい	砧が負けてい	砧と穂が平行
ナイヤガラ	カメルス	デラウエア
テレキハB	三三〇九、イブリットフラン	イブリットフラン
セントジョージ	一六一六	
グロアール	ガンザン一号、グロアール、五B、一〇二、四二〇A、セントジョージ、一〇一ノ一四、一五七ノ二	五C、三三〇九